

第56回 青年能

三喜多流

三輪 狩野 祐一
熊坂 谷 友矩

令和6年 9月7日(土)
13:00開演(12:00開場)

矢来能楽堂

主催:公益財団法人十四世六平太記念財団
協力:一般社団法人喜多流職分会

チケットご購入のご案内 発売日:7月19日(金)

一般前売券4,500円(当日券5,000円)/学生前売券2,000円(当日券2,500円)

※25歳以下、要学生証提示 全席自由席

会場・矢来能楽堂 東京都新宿区矢来町60番地 TEL03-3268-7311

公演のお問い合わせ・公益財団法人十四世六平太記念財団 TEL03-3491-8813

・インターネット 発売日:7月19日(金) 10:00~
喜多能楽堂ホームページ <https://kita-noh.com>
(24時間対応、要登録・無料)

【お受け取り・お支払い】

①セブンイレブン
ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受け取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

・電話予約 発売日:7月19日(金) 10:00~
喜多能楽堂事務局 TEL. 03-3491-8813
(午前10:00~午後6:00 休館日あり)

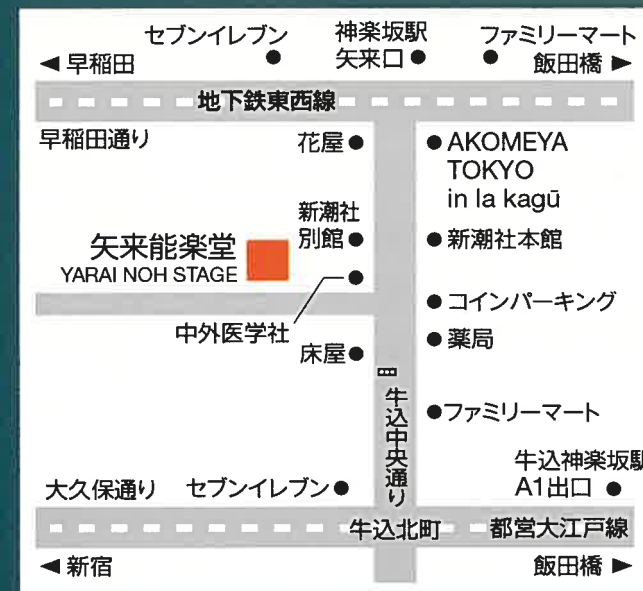
【お受け取り・お支払い】

①セブンイレブン
ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受け取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

②郵送
チケット代金と手数料を指定の銀行口座にお振り込みください。入金確認後、簡易書留にてチケットをお届けいたします。

・各同人でもチケットを受付しております。

※お受け取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。
ご予約の際ご案内致します。
※ご予約いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。



地下鉄東西線神楽坂駅下車 矢来口より徒歩2分
都営大江戸線牛込神楽坂駅 A1出口より徒歩5分
駐車場はございません。近隣のコイン駐車場をご利用ください。

※ご注意

- ・公演中の途中入場はお断りいたします。
- ・未就学児童のご入場はお断りいたします。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真ビデオ撮影、録音はお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光が出る電子機器のご利用はお断りいたします。
- ・お席を離れる場合は貴重品お手回り品にご注意ください。盗難紛失についての責任は負いかねます。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

矢来能楽堂

<https://yarai-nohgakudo.com>



●次回喜多流青年能予告

令和7年5月24日(土) 13時始

※次回会場は
喜多能楽堂となります。

賀茂物狂 高林 昌司
大 会 谷 友矩

番組

鞍馬天狗 金子龍晟
誓願寺 高林昌司

佐藤圭陽
塩津圭介
佐藤寛泰
谷友矩

後シテ・三輪明神
前シテ・里女 狩野祐一

能 三 輪
ワキ・玄實僧都 大日方 寛

大鼓 柿原孝則 太鼓 林 雄一郎
小鼓 飯富孔明 笛 杉 信太郎

間・三輪の里人 中村修一

後見 狩野了一
栗谷浩之

高林昌司 佐々木多門
塩津圭介 内田成信
佐藤 陽 金子敬一郎

休憩二十分

狂言 清水

シテ・太郎冠者 飯田 豪

アド・主人 岡 聡史

休憩十分

後シテ・熊坂の霊
前シテ・僧 谷 友矩

能 熊 坂
ワキ・旅僧 野口能弘

大鼓 亀井洋佑 太鼓 大川典良
小鼓 曾和伊喜夫 笛 藤田貴寛

間・赤坂の里人 内藤 連

後見 高林呻二
狩野祐一

金子龍晟 友枝真也
佐藤寛泰 友枝雄人
高林昌司 大島輝久

附祝言

終了予定 午後五時頃

三輪(みわ)

玄實僧都が大和・三輪山中にて心静かに修行をしていた。その庵を毎日訪れる女があり、今日も仏に供える櫛と水を携えて訪ねてくる。女は帰り際、晩秋の夜寒に衣を一枚所望する。僧はこれに応えつつ、女の素性を問う。すると女は「訪い来ませ杉立てる門をしるしにて」と告げ姿を消す。里人の知らせを受け、三輪神社に急ぐ僧都。神木の杉に先ほど女に与えた衣が掛かっていった。やがて明神が姿を現し、僧都に自身の罪を救うよう乞い昔語りを始める。

古の夫婦、夫はなぜか夜にしか訪れてこない。常に共にと願われると、契は今夜までと告げられる。別れを告げられた妻は余りの悲しさに、帰る相手の裾に糸をとじつける。その糸をたぐると、なんとこの三輪の神杉に結ばれていた。

三輪神社の由来を語り、古代神祕を明らかにしようとする明神は神楽を舞う。天の岩戸開きの古事を再現、三輪と伊勢の神が一体であるという理を僧都に授け、夜明けとともに夢はさめたのであった。

清水(しみず)

近年世間では茶会が流行っています。主人も流行に乗って茶会を開くにあたり使用する水(湧き水)を汲んでくるよう召使いに命じます。召使いは日頃からあれやこれやと用事を遣わされていて気が進まないのです。清水へ行くと鬼に遭遇して襲われたと嘘をつき、主人から預かった秘蔵の水桶も投げ捨ててきたと言いつつ見に行くと云いだすので、嘘がばれては大変と慌てた召使いは先回りをして、とある作戦を企てますが...

熊坂(くまさか)

旅僧が美濃の国にやって来ると、一人の僧が声を掛ける。僧は名は明かさないうが、ある者の命日だから弔って欲しいと頼む。旅僧は怪しいとは思いつつも経を唱え回向する。夜になり、僧の庵に入ると仏像がなく、大長刀や鉄の棒などの多くの武具が置かれており旅僧は驚き尋ねると、この辺りは盗賊や山賊などが人々襲うので、いざという時に助けるために備えてるという。僧が寝室に入ると行くかと思っていると先ほどまでいた僧の姿は消え、庵も無くなり、旅僧は草むらで一晚を明かし不思議に思う。

旅僧は赤坂の里人に出会い、この地で悪事を働いた盗賊の話聞き、先程の僧が熊坂の霊だと気づき弔いを始める。すると長刀を持った熊坂の霊が僧の前に現れ、吉次たちの宿に襲撃し牛若と死闘を繰り広げたことを長刀を奮い再現する。やがて夜明けが訪れ熊坂の霊は、どうか末の世を助けてくださいと言いつつ松影に隠れ消えていく。

(約八十分)